（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十三年十月五日　常磐毎日新聞　〔水曜日〕　第四千三百二十七號　〔一〕

常磐毎日新聞

日刊

十月四日　夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本忠治
磐城國平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社（振替口座）東京　四〇二二〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

我等の殿堂を護る
公德心滿点！
大ホールに喫煙者絶無
今明両日一般公開

竣工を壽ぐ　生華類麗し

昨日盛大に擧行された竣工式のあとを受けてけふから二日間我等の殿堂公會堂は一般市民に公開、隨意縱覽を待つて居る、けふ午前九時から折柄の雨を突いて續々と詰めかけた參觀者は昨日擧式の儘の美々しい場内の裝ひに先づ一驚の眼を見張り市民協力の實を擧げた此の大營造物の出現に異口同音『素晴しいもんだなあ』との讃歎の聲を放つ、階下大ホールの兩側には岡田華悦女史を始め正木てる深見米吉、田中殖臣の各華道社中、また階上ギャラリーの正面には須藤まつの、横山嘯雄、吉田よねの社中が夫々妍を競つて陳列した生花、立花、投入等が楚々として一段と場内に趣きを添へ、三階に昇れば高橋昇山社中の盤景や額面等各廿點が自然美の縮圖として人氣を呼んで居る、夜間は兩日共八時迄開館の筈だが本日は午前中既に一千二百八十餘の參觀者を數へ比較的婦人達の大いのは昨日の竣工式に臨んだ旦那樣の留守を仰せ付かつた奥樣方と、また一つには場内裝飾の生華や盤景が意外に人氣を博したものと觀られて居る

尚昨日竣工式の來場者は招待客七百二十餘の外に市役所吏員や工事關係者、藝妓、其他を合して總數約一千に及んで居り此の大人數が階下だけの然も机と椅子を使用して場所をとる擧式に何等の雜踏もなかつたのを見ても如何に大きな收容力を有して居るかゞ肯けるが更らに此人達が火氣や汚損を嫌つて喫煙所以外には一人も煙草を吸ふ人がなく實は當局が頭を腦した酒肴の祝宴に移つても禁煙を嚴守した點は如何に斯かる建物に就いての理解と認識を有して居るかゞ裏書されたものであつて流石に昨日の顔ぶれは公德心滿點の人達であつたと係員が感歎して居る

第一校の陸上運動

既報——明五日開催の平第一校秋季陸上運動會は生憎今四日の雨に祟られ延期されることになつたが若し今夕から明朝にかけ晴天となり決行する場合は午前五時を期し花火を打ちあげ合圖する

磐中第一位
濱通りの射擊

既報——縣下中等學校實彈射擊大會濱通り豫選は三日午前九時から浪江射擊場に擧行磐中、平商、双中、相中の四校代表二十名參加の下に熱戰を展開したが結局磐中、相中が勝殘り九日若松市で開催される縣下大會に出場覇を爭ふことになつた、各校の戰績は左の如くである

△1九〇點磐中△2八八點相中△3七〇點平商△4六七點双中

政民兩派圓滿に
協調成つて無競爭
所得稅調查委員の候補者顔ぶれ決定

來る十日改選の所得稅調査委員候補者に關しては政民兩派折衝の末、今や內外未曾有の非常時に際會し國民の總力を擧げて强靱な長期建設に邁進せねばならぬ秋に當つて蝸牛角上の爭ひを演ずるが如き擧に出づべきでないと兩派の意見圓滿に一致し民政三、政友四の割當を以つて無競爭裡に正員及び補闕員の顔ぶれを決定する事に協調成り政民兩派が共同の推薦狀を發し此の選擧戰には全く國民精神總動員の趣旨に合致するの擧に出づるの明朗色を發揮するに至つた因に兩派の候補者左記の如くである

▽民政派

正員　野崎滿藏　近藤吉松　青天目信治郎

補欠員　吉田壽三郎　樫村富保　吉田恭平

▽政友會

正員　小野晉平　渡邊貫一　柏原幸次郎　阿部政右衛門

補欠員　古川慶福　岡田千藏　大嶺庫　猪狩庄平

叶多氏は結局斷念か

好間村叶多清氏が所得稅調査委員の候補者運動に躍起となつて居ると傳へられて居るが時局下銃後避の情勢の競爭回が濃厚である處から結局立務補を斷念し次期の機會を待つ愼重な態度に出づるものと觀られて居る

鮫川堰總會

鮫川　鮫川堰組合では既報の如く今四日午前十時から平團体事務所に臨時總會を開き日曹小名濱工場との提携による水路改修費の交換條件及び農工銀行の手を經て借受けた組合債四萬四千七百圓と三萬七千七百七十圓の二〇の償還方法を變更を附議した

再度の献金

湯本　湯本町傾城愛國婦人會湯本分會幹事高荻たまさんは古金歯を賣つた十圓を三日國防費金に献したがたまさんはさきにも古錢を集め寄託したこともあり二度目の献金である

小名濱支局通信

經濟更生村の渡邊村を訪ふ

支局長　小野務平

諏訪神社に參詣を濟まして茲に腦裏に浮び出したのは中釜戶出身で柴田正則君の存在である柴田家は本村中でも舊家としての家柄を有し門地又君の右に出づるものがないとまで推尊されて居る、君は柴田家の宗家に生れ幼にして父を失ひ叔父子之吉氏の後見によりて人となつた磐中を出て師範二部を出てゝ本郡小學校に教鞭を取つた

吾々小名濱校にも福尾校長時代俊髦組の一人として評判を博し隨所に名聲を擧げて去十一年三月內郷尋高校を最後として家庭の都合上五十の坂に手も屆かんとする四十八才で退職の已むなきに至つた當時前途尚多望の君が育教界を隱退する事は斯界の一大損失である事を惜み壹絕を贈つて其の擧を羨望した今筐底から探し出して其當時の感懷を偲ぶと即ち其狀況が能く判明する

卅歳瓦陶出鳳麟
功成始有答楓宸
晴耕雨讀本其所
去作吟我風月人

と記憶して居る、此の氣持で君の門を叩いた、某日正午先づ西北に釜戶山脈を疊む高峰が連り屋敷を巡る河川細派ながらも清冽を極め滾々と盡きぬ其高丘を領斷した構へが柴田君の居城と云ふ譯である

無遠慮に玄關に通れば野良仕度の柴田君は吐哺握髮の禮を以て迎へて吳れた、舊知に接するこの心掛けに一段の明朗さを感ぜしめた、君は何時もながらの快男兒の方で嘗て如何なる場合でも悲觀した如き態度は三十年來の知己として一回として見せたことのないと云ふのが君の崇高なる修養から流れ出でた態度でこの明朗氣分に接しては如何なる鬱結性でも明快な氣分に感染せざるを得ない其談淨振りも決して退嬰的ではなく元氣と進取の富んだ論調、小にしては一村の自治制から大にしては日支事變の總くくりまでに論及すると云ふ調子で、山奥の生活と侮つて掛つたならば忽ち背負投げを喰つて面喰ふと云ふ有樣である

成程書齋を見ると和洋萬卷の書は書架を埋め、机の左方には高級のラヂオを据へ付け社會の出來事は何一つ洩さじと用意の周到なるにも一驚を喫した、そして歸隱後は主として村治に奔走し永山村長を助けて眞の理想鄕たる模範村を造るべく邁進するとの意氣を示して居る

斯く本村には敎養あり財力ある幾多の志士が眞に經濟更生の爲めに努力を惜まざる人々が控へて居る以上永山村長の施設は右から左へ實現化する事に間違ひないと云ふ極印が捺されてある事と深き感銘に打たれ柴田氏と別れ歸途に就いたのであつた

（完）

小名濱町
經濟更生
記念の事業

小名濱町役場では來る六日の經濟更生記念日を期して社會課躍起となり一般町民の禁酒、禁煙の必要を說き更に出征遺家族に向つての勤勞奉仕、更に進んでは貯金報國の一端として報國貯金、更生貯金等をも奬勵する筈

磐城丸と東日本丸
秋刀魚競爭

縣水産試驗場所屬船磐城丸と東日本漁業株式會社の所屬船とは官民對立の形で漁撈に活躍中であるが今朝磐城丸は去る一日宮城縣氣仙沼に入港十一万尾の秋刀魚を漁獲し三日更に出漁、目下漁場に向つて航行中との無電あり東日本丸は去一日小名濱港に三十萬尾の水揚後二日午前五時直ちに出帆是亦漁場に向つて猛進中だが未た魚群に遭遇せずとの無電だが津田船長の談に依れば秋刀魚群は東經百四十九度一分、北緯四十度の沖合で小名濱港よりは六百キロの地點に當ると云ふので全く遠洋漁船でないと漁獲は六ケ敷い模樣である

純金を裝ひ
佛像で詐欺
インチキが發覺
寢込みを襲れる

平市月見町元茨城縣巡査骨董商樫村子之助（六三）は目下仙臺署に留置され詐欺罪で取調べを受けてゐる仙臺市材木町前科二犯齋藤三藏（五二）と共謀インチキ佛像を種に詐欺を働いてたこと發覺三日朝寢込みを襲はれ檢擧仙臺署に連行されたが同人は齋藤と共に金色の大黑像や觀音像を作り純金の如く裝ひ信夫郡杉妻村の滿願寺に三百圓で賣付けたのに味をしめ磐崎村古物商緒崎重太（五三）に頼んで小名濱町船主高橋忠治氏方に預け入れ入質の名義で百五十圓を騙取したものである

豊間の表彰

豊間　豊間村では明五日からの銃後後援會强化週間に際し村內に於ける銃後運動の特志者

八幡町四家健雄、小松市次郎、沼ノ內遠藤龜吉、川向積穀組合、愛國婦人會豊間分會

を表彰することになり今四日縣にこれが表彰方を申請した

陷落の祈願

勿來　勿來町關田部落の出征遺家族を始め部落有志、青年團、小學生達は約一ヶ月前から毎夜七時を期して鎭守社頭に集まり「漢口陷落」の高張提灯を掲して皇軍の戰捷祈願をしてゐるが漢口陷落迄これを續ける筈

物見岡祈願

平市　物見ケ岡稻荷神社の大祭は來る七、八の兩日だが皇軍戰捷、武運長久の祈願祭が執行される

勞力不足で
濱木炭極度の品不足

既報濱三郡（石城、双葉、相馬）木炭同業組合では支那事變による勞力不足に備へて過般來木炭の增產に躍起となつてゐるが愈々需要期に入つた昨今同組合の增產宣傳も空しく切夫や燒夫は鐘太皷で探しまはつても殆んどなくさりとてこればかりは國體等の勤勞奉仕も出來ず甚だしいところでは人手不足のため折角松下げを受けた山も期間が過ぎてそのまゝ返さねばならないといふ樣なところもあり本年冬期は木炭飢饉が懸念されるに至り需要期を控へ同組合では供手傍觀の態である

安藤子爵
小名濱視察

平市公會堂竣功式に臨席を招請した舊平藩主安藤子爵は二日午後二時半小名濱町を視察、日本水素工場、日本水産、小名濱漁業組合等に立寄り其事業の躍進振りを嘆賞し最後に中央氣象臺小名濱測候所を訪ねた、氣象學に多大の研鑽を積む子爵は氣象關係の各機械室に於て小磯所長の說明を詳細に聞き參考に資する所多々あつた如く約二時間の視察を終へて東京園藝學校出身者より成る鄕人會を小瀧館に催し午後七時平市に向はれた

簡易保險と報國運動
平郵便局長

（三）

その外簡易保險は「公共ノ利益ノタメ」といふ積立金運用の原則に從つて公共團体に對する放資にも力を注ぎつゝあり、現に自作農創設維持、農業倉庫、耕地整理事業、小學校上下水道、傳染病院等約五十數種に亘る公共事業に對し資金を放資し地方文化の開發重要産業生地のたみ貢献するところが少くない。

第四は支那事變特別取扱である

今次事變の勃發するや簡易保險は事業の使命と非常時局とに鑑み逸早く北支事變特別取扱規則を制定し北支、南支の戰野に、護國の華と散つた將兵には保險金の即時拂を開始し、出征軍人軍屬及其家庭の契約に對しては保險料拂込猶豫の便法を講じ又此等軍人軍屬を被保險者とする新規契約の申込にはその手續の簡易化を圖る等の特則を織り込んで、銃後遺家族の備へに完璧を期して居り既に本年六月迄支拂つた保險金は五百八十七萬九千餘圓に上るを以ても如何に簡易保險が出征將兵の家族の生活安定に將又時局の銃後經濟に寄與してゐるかゞ窺へる。

第五は簡易保險利用による銃後々援會の活躍である。

簡易保險事業成績は今次事變後時に一段の進步向上を示してゐるが其の原因の一つとして各方面に簡易保險利用に依る銃後々援會の結成があることを見逃すことは出來ない。この後援會の主體は概して町村、在鄉軍人會、婦人團體、會社、工場、商店等であるが之等の銃後々援會に於ては應召又は出動したるものに對して自らが簡易保險の契約者となりその保險料を負擔するものであるが而も實狀に於て團體拂込の方法に依つて保險料の割引を受けその割引金を以て會の經營費に充當するといふものも多數ある現狀である。

現在銃後々援保險團體數は七百九十八組ありその契約件數が三萬四千五百六十件の多數に上り、今後も益々增加の傾向を示してゐるが銃後會と簡易保險とを結び付けたこの施設は銃後を護る簡易保險の働きとしては大きなものゝ一つであり、時局柄極めて有意義な企であると考へることが出來る。

斯くの如く簡易保險は時局に即應して國策遂行上大きな役割を演じつゝあるが更に事業の躍進と其の使命とに稽へて今回制度の內容に重要な改正が行はれ十月一日から實施せらるゝことになつた

（續く）

玉川男女
一夜講習

玉川村男女青年學校は石井校長が去一日より二日に亘り男子には一夜、女子は一日の講習を課して非常時に備へる處であつた即ち一日午後一時男子青年學校徒四十餘名、青年團員六十名を青年學校に召集し体操講習をなし夕景よりは炊事訓練、食事作法後青年讀本輪讀會唱歌講習に幕を閉ち學校に一泊二日午前五時起床神社佛閣への奉仕、宮城遙拜、出征將兵の武運長久祈願して午前六時解散し同七時より女子青年學校に生徒三十名、女子青年團員四十名を召集直ちに石井校長指揮の許に神社佛閣への奉仕、宮城遙拜、出征將兵の武運長久祈願後割烹、作法實習に入り後湯本菊地校長の講演會に移り終つて体操唱歌、遊戲等の各種目を了して午後四時頃和氣靄々裡に散會を告げたが頗る父兄側より好評を受けて居る

平商の……
配屬將校
菅井少尉赴任

既報過般原隊に復歸を命ぜられた平商の配屬將校中村貫一氏の後任は第二師團輜重隊少尉菅井幸雄と決定今四日着任した、同氏は双葉中學も兼務する

尊い送金
軍用機へ

飯野村谷川瀬丹野佐太郎さんは先般の水害で四反步の水田被害をみたが新聞でこれを知つた息子文男の所屬する兩角部隊の前戰勇士が三日金一封を送つて來たのに感激こんな尊い金を私一人のために使ふべきでないとて今四日軍用機へ献金した

平和會員献金

過般結成された平協和會好間方部小川武夫こと金永珠さん外二十名は五十錢乃至一圓宛を醵出去一日平署を通じ國防費に献金した

自動車罰金

湯本　湯本町字天王崎丸通運送店仲士安部義雄（三四）は無免許でオート三輪車を運轉今四日平區から自動車取締令違反で略式罰金十圓に處された

簿記の研究

平商　四年の簿記科研究教授は今四日午前九時から大澤敎諭により行はれた

（話の種）

一日に何百俵となく掬ひあげられた好間川の川炭は無盡藏と迄はゆかなくとも、今後五年や三年拾つたところで決して無くなるものではない、ところが何處から出たか知れないが今後川炭を無斷で拾ふと罰金だとか、或は一俵で十錢宛採取料を取られるとかと、とんでもない流言を放つた奴がゐる、これが爲今迄黑山の人だかりが俄かに人ッ子一人行かなくなつて昨日迄の賑ひは全く見られなくなつた、實に罪な流言をなしたものだ、川炭は砂や砂利と異るものだから縣でも決して一人位や特定の人には許可しない筈だから護岸や田畑を荒さぬ限り拾つても一向に差支ない譯、と某官廳の役人は語つてゐた

ラヂオ

JOHK

今晩の部

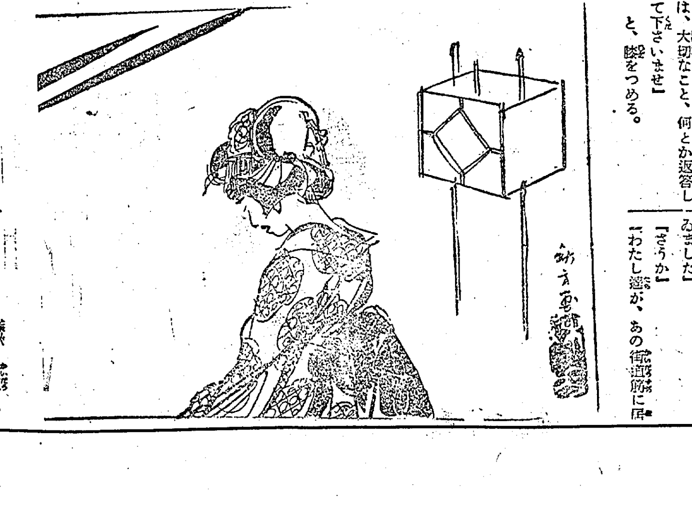
▽後六、〇〇　擬音入管絃樂　東京オーケストラ
▽後六、二五　講演「世界一近視國」醫博　高野六郎
▽後七、三〇　國民歌謠
▽後八、〇〇　琵琶と詩吟（AK第二）
▽後八、三〇　時局演藝「三つの空箱」三益愛子
▽後八、四〇　青年の時間
▽後九、一〇　講談「勝田新左衛」神田伯治

明日の部

▽後六、〇〇　（子供の時間）ラヂオ訪問傷「病兵慰問」（陸軍軍醫學校より）
▽後六、二五　講演「英國外交の基調」聽濤克巳
▽後七、三〇　銃後々教化大講演會（日比谷公會堂より）
▽後八、〇〇　齊唱と合唱「傷痍の勇士」外　オリオンコール外
▽後八、四〇　短歌物語「ふるさと」村瀬幸子
▽後九、〇〇　浪花節「輝く傷痍徽章」梅原秀夫

愛憎三度笠

吉川延　作
瀧秋方　畫



兄妹　二

源十郎は、松千代の憤とした のを見て、

「何だ、憤つたのか」と源十郎は妹をからかひ氣味に云つた

「エ、……兄さんは、父の仇でもない人をそれほど仇に思ふことはありませんわ」

と、言葉までが改まつた。

「畜生！　もういゝわ」

彼は、小ざかしい妹の態度に、噴き出さうとしたのであるがやつとこらへて、鋭く怒鳴つた。

「いゝことはありません、私には、大切なこと、何とか返答して下さいませ」

と、膝をつめる。

「俺が、承諾せぬといへば、一體どうするのだ」

「エヽ、その時は、私にも覺悟があります」

松千代の眼が鋭く光つた。

「困つた奴ぢやな、それほど大助といふ男はいゝ男かい」

源十郎は、妹の眼鋒を、正面から反撥さすに忍びなくなつて、さう云つて笑ひ出した。

「知りません」

さすがに、松千代は赫然として、頰を染めた。

「それよりもぢや、森島一角に一度談判する必要がある」

彼の態度はやゝ改まつて來たのである。大助の、凜とした若やいだ、美しい顔に似合はぬ、どことなく、劍客らしい、颯爽たる姿をかまへた、その態度を、殺すに忍びない氣持になつたのであらう。

しかし、眞實に腕をくらべれほどちらが殺されるかわからないのであるが、源十郎は、大助を殺し得ると、自分一人で確信してゐる。

それほど、彼は、自慢の太刀筋を持つてゐるのであつた。

だが、妹の態度から見て、どうやら、戀仲らしいやうにも思はれるので、やゝ敵意がにぶる、而も父親の、浪人したその原因が、森島一角の讒訴にありと聞いては、さすがに父子喧嘩をした仲であつても、復讐の熱情が彼の心臟を波打たせたのである。

「森島は、矢張、小濱にゐるかい」

「エ、何でも、この邊に來てゐるとも聞いてゐましたが、時々小濱へも御歸りになると聞いてゐました」

「さうか」

「わたし達が、あの街道筋に居りましたので、時々、街道を、下郎を伴れて往來する姿を見たことがあります」

「その時、なぜ、斬り捨ぬ！」

源十郎はくやしがる。

「でも、あたし達に、そんなことが出來ますか」

「父は」

「お父さまも、くやしがつて居られましたが……老境に入つた上に、中氣の氣味がありまして……身體の自由が……」

と、松千代は昔のことを思ひ出したのであらう、涙をハラハラとこぼし初めたのであつた。

源十郎は、妹の泣くのを見て、

「さうか、よし〳〵」

と、背でも撫でてやりたくなつたのであらう、膝をすゝめて、懷しさうな眼つきで茫然として盃は膳の上に置いたまゝであつた。

「お兄さん、まだありますわ」

と、涙の溜まつた目を上る。

「何だ」

「あの、一角の奴、母の處へ、あたしを、おめかけに呉れといひますの」

「何と！」彼の目が光つた。

鏡の修繕　鏡の裏が剝げた場合でその部分を脱脂綿で綺麗にふき上げ少し大き目の錫箔を張りつけて水銀を眞ン中邊に落し錫箔が非常に光つて來るまで柔革でよく擦ります、しつかりついたら、其の上に滑らかな紙を敷き重い本の四五冊を重ねて一日もおけば元通りの綺麗な鏡になります

人口問題と職業婦人の進出

社會問題としての重要事

内務省社會局技師醫學博士　大西清治氏談

我國に於ける職業婦人數の正確なる統計は未だ明かでない、試みに昭和五年に行はれた國勢調査の數字を見るに婦人の總人口三一、七七二、一六〇人、婦人有業者數一〇、二三一、〇三〇人で婦人總人口の三割一分は有業者であるが、更に其の八割八分餘は使用人の部類に屬してをり、同じく國勢調査の結果、此の使用人階級の婦人は實に八、九五八、〇三〇人といふ夥しい數に上つてゐる。其の**大部分**は農業における婦人勞働者に屬するものであるが更に紡績、製紙等の工業方面に於ける勞働は百十萬餘人を數へ官廳銀行、商店會社方面に從事せる所謂知的職業婦人の數は約七十五萬二千人に達してゐる。斯くの如き夥しい職人の社會的進出は相當重大なる現代社會相として極めて興味ある問題であると同時に更に愼重なる檢討を試みる必要がある。婦人の職業進出といふ事實が何等かの形において我國の人口問題に影響する所ありとすれば、その最も重大なる影響は、出生率の低下であらう　**生活戰線**に働く婦人がその職業勞務から生殖機能の發育生熟を阻害される結果は、更にその生殖能力が妨げられ、ひいては不姙症に陷ることが一般家庭婦人に比して遙に多かるべきことは想像に難くない。事實工場勞働婦人乃至職業婦人はその職業のために各種の影響を受けて不姙となる者少からず、ことに工場勞働者等にして、細胞器の慢性中毒に陷る危險のある業務に從ふ婦人では、一層その弊が甚だしいわけである。一般に職業婦人特に工場勞働婦人には姙娠早期中絶が多いのであつて、その**原因**は主として勞働干與による物理的影響にありとされてゐるが、それだけでなく、その他には仕事によつては化學的影響即ち鉛中毒によるものも少くない、しかもその危害は前者より一層深刻である、私が印刷するに就て調査した所によれば常時鉛を取扱つてゐる勞働婦人の五年以上不姙者の割合は四パーセントに及び同じ生活程度の家庭婦人における二パーセントに比べて非常に多いことが明らかにされた。要するに婦人の職業進出はその直接的職業の影響によつて、著るしく月經異常者を增し生殖機能に障害を及ぼす結果は極めて、高度に不姙症の增加となつて現はれ更に流產に原因して授乳の不完全乃至其の**能力**の缺乏が現はれ、之がためには乳兒死亡率の增加も隨伴する。近時多くの人口學者によつて我國の出生率は既に低下の傾向を示せるものとして國家將來のため大いに憂慮せられてゐる。婦人の職業進出の夥しい大勢は明らかに我國の人口問題に多大なる影響を及ぼすものと斷言せざるを得ない。

迷ふ心は誰も同じ　ごこの易者も大繁昌

ゼイチクと算木は亂れ飛ぶ

あゝしやうか、かうしようかと思案の末、迷ふ心は易者の許へ飛んで行く、殊に結婚シーズンを控へた今日この頃、筮竹と算木は亂れ飛ぶ。これは科學的謎

易者高島泉山氏の占ひ漫談

不況の際こそ易者の門前は市をなすだらうなど人は考へるが、事實はさうでない、苦しみもがいてゐる最中は誰しもワラをもつかみたい心理で、占ひでもといふ氣を起すだらうが、それはその當初だけの話、明日みてもらはうと思案してゐる中に、その機會を失つてしまふのが多い、苦しみのどん底に陷つてしまへば『もう仕方がない』と運命の數譜を漏らすだけであきらめてしまふらしい！

金をとつても物質を與へない』――これが易者の商賣！悲運にあへぐ時は一文の金をも有効に使ひたいのが人間の心理、殊に私達のやうに利を前提としてのみ動く商人街の眞中にゐるものほど、その影響は大きい、これに反して利を見ることなら一日に何回でもお百度を踏む

不況ばかりが占ひに關係するものではない、占ひにはまた易者日和といふ日和がある、それは日本晴れの時ではない、雨降り前のあるひは雨降り揚句のはつきりしない曇天の日和である、天候は心的作用に微妙な交渉を持つものらしい、また『麥が赤くなると易者の商賣が暇くなる』『紅葉が色づけや易者が活氣づく』など先輩の名言があるが、全くその通り、麥の赤くなる五月頃から十月位までは至つて閑散な凶運だが、紅葉の十月頃からそろ／＼占ひシーズンの卦が出て、明くる年の五月頃まで吉運がつゞく

占ひの　種類とその季節　最近では普請、造作、方位等の移轉の占ひが最も多く、次が獨立開業とか商賣換へ等の轉職、縁談、運勢（身の上判斷）等の順で、命名姓名判斷その他はぐつと少くなる。また非常時特異のものとしては何時、何國と戰爭が開かれるんだらうかなどと占ひに來る。主に投機家、軍事研究家などに多く、事のついでに訊ねて行く軍人もある

移轉は　八月頃からぽつぽつと數を增して九、十の二ケ月がその頂上となる、轉職の方は夏から秋のもの、縁談は新春の一、二、三月それから結婚シーズンを迎へて八月末から九月、稍やかな秋が躍る、運勢は季節を持たないが『一年の計は元旦にあり』の俚言通り正月が最も多い、次に男と女とどつちが占ひお好きか？一般に下町方面では男の方が斷然、女は山の手方面、下町は商店街で比較的自由の時間を作り得る主人が成敗を一身に賭けて驅けつけるため、勤め人の多い山の手では主人は時間がまゝならない、つまり家にゐてあゝでもない、かうでもないと煩悶してゐる奥さん達が泣き込むといふことになるためらしい

年齢から見ると四、五十歳の働き盛りの男は一、二、三月に斷然多く、夏から秋にかけては廿七、八歳の男が多い、女は比較的中年以上で二十歳前後の娘さんには必ず母親がついて來る、娘さん達の占ひはほとんど縁談もの、戀愛ものは月にやつと一つ位しかない、これは高熱に浮かされ、戀愛を超越して樂しい夢を見てゐる戀人同志には、易者の御託宣など必要ともしないのであらう

易者は　自分の運勢を判斷出來ないんだらうが、もつと金持になれさうに、もつと出世も出來るだらうにとよく貧乏暮しの易者を笑ふ人もあるが、これは『當るも八卦、當らぬも八卦』ときめ込んで非科學的のちやらんぽらんの事ばかり並べてゐるから、つひ正しい自分の判斷も出來かねるといふわけ、更にまた『易者は潮間の原因をなすべし』といふ先哲の教へを守らうとしてゐるから、お世辭だけが上達してます／＼正しい判斷の目が暗くなつて行くわけ……易者たるものまた難い哉！である

食べ物で髪が美しく

藥品より有効

髪の脱落を防ぎ、又毛を多くし艶やかにするには高價な藥品類を用ふるよりも食餌に注意し毛の榮養になる食品をとることが最も有效である。その方法としては

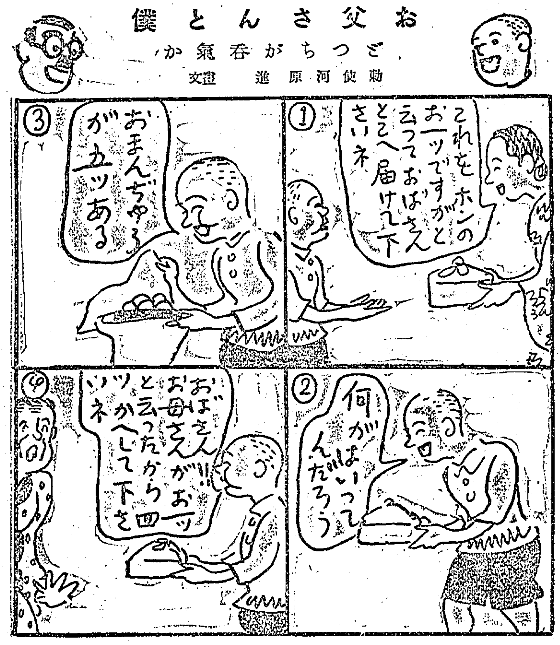
毛質をよくする食物　先づ小骨の食べられる魚が最もよい、フナ、ハゼ、ジャコ、アジイワシ等でこれ等は乾物でも佃煮でも效果があります、山村などではこれ等の魚が手に入り難いところではお正月に用ふるゴマメ（たつくり）なども好適です

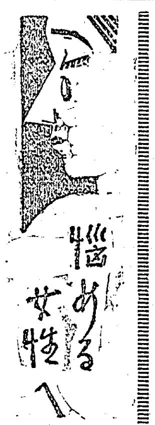
毛の量を增す食物　從來昆布が最も有功であるといはれてゐたがそれと同じ或は、ヨリ以上に有效なのはニコゴリの出來る魚（鯉、鯰、ヒラメ、ハゼ、サメ）類殊に是等の身より『あら』の煮たものを食すると有効です

赤毛白髪を防ぐには　青菜類を成るべく澤山食べるとよろしい勿論これは一月二月と氣長く續けねばいけません。なほ洗髪の際毛をあらはず根をあらふといつた心持になることが最も必要だといはれてゐます。

お父さんと僕　どつちが呑氣か

勅使河原進 畫文


①
これをホンのお一ツですがとおばさんとこへ届けて下さいネ
②
何がはいつてんだろう
③
おまんぢゆうが五ツある
④
おばさん!! お母さんがお一ツと云つたから四ツかへして下さいネ

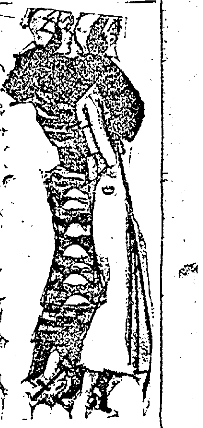


自暴な生活を續ける妹の行末を案じる姉

【問】妹は女學校へ行くまでは大變に明るい子で、誰にも好かれてゐました。ところが女學校二年の終り頃からだん／＼成績が惡くなり二年前、突然家出してしまつたのですこのときは擔任の先生が早速急行して家出先からつれもどして來ていたゞきましたが、その後妹は退校されました。母は父があまり嚴格すぎたからだと云ひました、父は娘一人では一足も外出させない、一寸でも仕損じがあると體罰を加へるのです。私は、それもあるが友達關係だと思ふのです。學校では何でも最惡のグループに入つてゐたやうでございますそれはさうとして置いてそれから妹は家人の監督の下に家にとぢ込められる事になりました。それからと言ふもの〻妹の生活それは全くお話にならぬのです、朝は八時頃に起きて何するでもなく、朝飯を小言云ひながら食べる、そして一人でいつまでゞも、ねころんで居り、何とかうそをついて外出することばかり考へてゐる、母、姉弟に反發し、特に私に對しては非常にひがみを持つてゐます、何をしだすかわからないので、はれものにさはる樣な氣持です。妹は社交的ですから近所の人にはそれは受けがよく、まるで私達が妹を一人虐待してゐるやうに取られてゐます。しんみりした氣分で諭すと茶化して聞き入れないし、激しく忠告すれば殺してくれと云ふのです。こんな譯で家庭は日々暗黒となつて行きます。一體どうしたらこの妹を救ふ事が出來るでせうか（惱む姉）

父母を說き新しい道を拓いてあげよ

【答】妹さんが家出をした原因は恐らく一つはお母さんのいはれる樣にお父さんの頑固一方嚴格一方からであるともいへるせう、けれどもそればかりに原因を置いてお父さんの責任のやうに思はれるお母さんは間違つてゐます、それよりもつと大きな原因は貴女のお考へのやうに類をもつて集まつてゐた學校の友達關係にあると云へます、從つて、その友達から離すといふ事は大事なことです、併し監禁同樣にするといふ事は惡から遠ざける事は出來ても更によき生活への轉心にはなりません、この際何とかして妹さんを轉身轉心に努めさせるやうにさせねばなりません、それには何よりも毎日の生活をいとなませる事です。何かその日のして行く仕事を見つけて上げる事です最も好ましいのは信賴できる親戚があつたら事情を良く話して一時預かつてもらふ事です但しお孃さんとしてでなくて若い働き手として毎日の仕事を家の人と一緒にさせて貰ふ商家ならば商賣の手傳ひを或は何かの技能を與へさせるのもいゝでせう、それとも新しい組織で國民農園を經營し生活の態度を改へてゐる高等農民學校、家庭學校などに思ひ切つてお賴みになるのもいゝ事です、とに角貴女は一方にお父さんを說き一方にお母さんを勵まして妹さんの爲に道を開いて上げなさい（以）



……第百二十八回……

過ぎし惱み（二）

早百合はまだ綾子と一緒に、市外……といつても、すぐ町續きで共同生活をしてゐるのだつた。

『綾子さんは、お留守？』

『そ。さつき市内の方へ。あたしもこれから出かけようとおもつてたところなの』

ちよつとしたよそ行きの着物に着替えてゐた早百合は、思ひなしか、今晩は殊に艶美にさへ見えるのだつた。

ちやア、出かけようか？』

『あら、まあいゝぢアないの。またいらしたばかしぢアありませんか。御遠方のところを折角いらしたのに……』

『しかし、御用があるんでしよ？』

『用つてほどのこともないの。明晩にしたつていゝのよ』

『さうですか。でも、散歩かたがた一緒に行つてもいゝ』

『さうね。でも、兎に角暫らく休んでゐらつしやいな』

さすがに女達の居間とて、男の住まゐに見られない、ある艶めかしさがそこらに充ち／＼てゐる。何度も來て、別に珍らしい譯ではないのであるが、杏二は自然と室内を見廻さない譯にはいかなかつた。

『雪乃さんが亡くなられて、ほんとにお淋しいでしよ？お察しするわ』

家に一緒にゐた人間とちがつて、さう切實にう淋しいといふ感じはしないけれど、それでもね今まで近い關係にゐた者だから突然ゐなくなつたとなると、なんとなく淋しいもんですね』

『淋しいもんだわ』

と早百合もしみ／＼と、

『それにあなたとはあゝした特別の仲だつたんですもの』

『……』

別に皮肉に言つた早百合の言葉でないとは解つてゐながら、何とはなしに、杏二はそれきり默つてしまつた。

茶をいれて出しながら、早百合は笑つて、

『あら、ごめんなさい！あたし別に意味あつて、あんなに言つたんぢやないのよ』

『いやア、解つてます』

杏二の口から微な吐息が漏れた。

『さうを。だつたらいゝけど。あたしやまた、あなたが……。あ、よしませう／＼。ねえ、もう過去つたことなんか……』

『さうです。過去は過去として葬らしめよだ。もうお互ひにあの人の事は言はない樣にしよう』

『さうよ！』

『今ぢやもう、お互にさういふことを平氣で前のやうにひとごとに言へない……といふより、言ひたくない間柄になつてるんだから……』

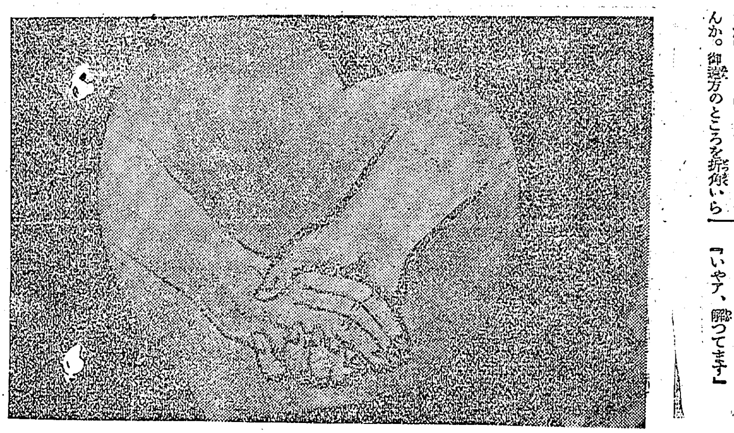
早百合は一瞬間ぢつとしてゐたが、突然寄つて來て、杏二の手をギュッと握つた。

『ほんとよ！ねえ』

その眼は熱情に輝いてゐた。

『綾子さんなんか、もう知つてる？あんたさう言つた？』

早百合は默つてかぶりを振つ



元東京市教育局學校衞生技師
醫學博士　岡田道一先生著
『育兒法と牛乳の用ひ方』
定價一部十錢でございますが赤ちやんのあるお母樣方に
無料で差上げたいと思ひます
御希望の方は遠慮なく御申込み下さい
岡田ミルクプラント
平市鎌田町（電話五一番）

專門
花柳病科
婦人科
產科
▼入院隨意
井坂醫院
平市田町　電話五五九番

メガネは！
玉屋
平市二丁目

クレオソート　壹圓六拾錢
精製コールタール　壹圓五拾錢
鐵材金物工具
山田文一商店
平市仲町通り
電話二六二番

かまぼこ
折詰仕出し
製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
天孫寅
平市一丁目　電話一四一番

移轉の御知らせ
私儀今般左記肩書の場所に移轉致しました。從來通り御交誼賜はり度願上ます。
昭和十三年十月
搔槌小路一番地
（元千葉辯護士事務所跡）
辯護士　安齋勝美

齒科口腔外科
レントゲン科
院長　東京齒科醫學士　原精一
電話三一一番
平市土橋通
原齒科醫院

根本產科婦人科醫院
（病室完備）
（入院隨時）
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
【電話四三番】

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平市田町　電話五一三番
內科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科
◎看護婦至急募集

銃後の皆樣喜んで御使用になる
糸イラズ
綿布、綿糸、暴騰の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジヤケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御備へ御使用下さい
定價　20錢　30錢
平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

▼是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平四　電話六〇六番

北川外科
外科一般　レントゲン科
內臟外科　泌尿器科
平市新川町二七
醫學博士　北川芳夫
（電話四六四番）
◎晝夜診療・入院隨時・血液檢査每日

開業お知らせ
〝御料理〟
金みよし
平市仲田町
電話四一九番

三井タクシー
平二　電話六八五番

國旗と提灯
平四
スガヤ
電話[illegible]

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

御贈答には……
〝是非!!!〟
新鰹節と
新發賣の
貝燒罐詰
……風味百%……
▼「鰹鹽から」も御座います
志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）